

「広島ビジョン」首相は意義強調も

核軍縮なお道筋見えぬ

先進七カ国(G7)首脳は二十日、核兵器のない世界を「究極の目標」とする広島サミットの首脳声明を発表した。これに先立ち、十九日にまとめた核軍縮に関する共同文書「広島ビジョン」は、核保有国に核軍縮交渉を義務付けた核拡散防止条約(NPT)を基礎とし、ロシアや中国にも対話を求めている。ただ、実現の道筋は見えない。首脳声明では、核軍縮に関する記述はわずかに記載された。

「広島ビジョン」はG7

首脳会議の成果をまとめた文書としては初めて核軍縮に特化したものだ。核兵器のない世界を「究極の目標」と位置づけ、実的なアプローチでのG7の関与を確認した。

具体的には、核兵器の不使用を継続させる重要な性を強調。ロシアが履行停止を決めた米ロ間に残る唯一の核軍縮合意「新戦略兵器削減条約(新START)」への履行復帰を求める。不透明な形で核戦力を増強さ

核軍縮に関するG7「広島ビジョン」の要点

核軍縮の基礎として

核拡散防止条約(NPT)の堅持を強調

ロシアによる核兵器の使用と威嚇は許されないと表明

透明性や対話を欠いた中国の核戦力増強を懸念し、ロシアを含め核軍縮交渉の実質的な関与を要望

原発を含む平和的な原子力の応用が低炭素エネルギーの提供に貢献すると強調

世界の指導者と若者に広島・長崎訪問を促す

首脳声明で記述わずか

首脳会議の成果をまとめた文書としては初めて核軍縮に特化したものだ。核兵器のない世界を「究極の目標」と位置づけ、実的なアプローチでのG7の関与を確認した。

具体的には、核兵器の不使用を継続させる重要な性を強調。ロシアが履行停止を決めた米ロ間に残る唯一の核軍縮合意「新戦略兵器削減条約(新START)」への履行復帰を求める。不透明な形で核戦力を増強さ

G7首脳の決意や具体的合意、今後の優先事項、方向性を力強く示す歴史的意義を有するものだ」と記者団に強調した。

ただ、いずれの措置もこれまでG7が主張していたものとの違いは見えず、目新しさに欠ける。ウクライナ侵攻で核の威嚇を行うロシアや核戦力の不透明な増強を続ける中国を非難する

一方で、G7の米英仏が保有する核兵器は「防衛目的」と強調し、核削減の目標も掲げていない。

二十日に発表した全四十

核不拡散につながる包括的核実験禁止条約(CTB)の発効的重要性も強調。核兵器の材料となる高濃縮ウランなどの生産を禁止する兵器用核分裂性物質の記述は、「べつの半分にも満たない分量」で、広島ビジョンの記述の一部を踏襲しただけだった。

ICAN批判

「具体策ない」

岸田文雄首相は「核兵器のない世界の実現に向けたた

脳が十九日発表した「核軍縮に関する広島ビジョン」

を「核軍縮に向けた意義ある成果からは程遠い」と批判する声明を発表した。「核なき世界に向けた具体策を示さないばかりか、核使用の権利を保有する重要性を強調している」と指摘した。

広島ビジョンは「核なき世界」という「究極の目標」へのG7の関与」を確認。G7側の核兵器に関する「防衛目的のために役割を果たし、侵略を抑止し、戦争や威圧を防止すべきだと

して抑止力を正当化した。

ICANは声明で「G7は長年の不十分な取り組みを新たに『ビジョン』として売り込みながら、国家安保全保障政策の形を取って(核兵器による)市民の大規模殺害を促進している」と指摘した。

ICANのホグスタ事務局長代理はG7首脳に「ロシアや中国を名指しするだけでは不十分だ。自ら立ち上がり、G7以外の核保有国を核軍縮議論に取り込む必要がある」と訴えた。

(共同)